

1

うごん県

# 時間旅行物語

2

夏の瀬戸内  
アートまつ盛り、

瀬戸内国際芸術祭2013



## アートの楽しさを教えてくれる 丸亀市猪熊弦一郎 現代美術館 (MIMOCA)



大竹伸朗展の作品  
《モン・リゾー(自費で制作したスクラップ作品)  
2012年『DOCUMENTA(13)』での展示風景/  
撮影 写真(山本真央)  
©Shingo Onoue

カラフルで不思議な形をしたオブジェをベンチ代わりにしたり、巨大な壁画の前を子どもたちが笑顔で駆け回るその場所は、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館のエントランス。丸亀市ゆかりの猪熊画伯と建築家・谷口吉生氏が対話を重ねながら設計された同館。子どもが大好きで、「現代美術を日常的なものに」と願った猪熊画伯の思いが館内の至る所にちりばめられている。猪熊画伯の作品が常設展示されるほか、現代アートの企画展も行われる。

7月13日(土)から11月4日(月・祝)まで、瀬戸内国際芸術祭2013の女木島「女根/めこん」の作者で現代美術家・大竹伸朗の四国では11年ぶりの個展「大竹伸朗展 ニューニュー」が開催される。同時期に高松市美術館で開催される「大竹伸朗展 憶速」(7月17日(9月1日)と連動しており、県内で同時期に、2つの異なるタイプの個展を見ることが出来る。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館  
丸亀市浜町80-1 TEL0877-24-7755  
大竹伸朗展 ニューニュー/会期中無休



# 香川県 時間旅行 物語



まだ瀬戸大橋がなかった頃の鉄は  
宇高連絡船に乗って



修学旅行先として人気を博していた昭和30年代頃の栗林公園

香川を旅すると、

さまざまな時代が交差する

面白さに出合える。



撮影/ YOKA YAMAMOTO



昭和40年頃の「こんぴらさん」の石段

参拝客でにぎわう門前町・琴平は懐かしい昭和のたたずまい。  
栗林公園や玉藻公園は江戸時代の優美な庭園を今に伝え、屋島から望む瀬戸の海は源平の合戦絵巻をほうふつさせる。島々を舞台に展開される現代アートの作品たちは未来の予感に満ち、いりこの島で交わされる言葉には優雅な平安のアクセントが残る。まるでタイムスリップしたかのように時空を超えて展開する歴史や文化、そしてアートの数々。うどん県で繰り広げられる「時間旅行物語」に香川の奥の深さを知る。さあ、一緒に香川を旅してみませんか。

誰にも忘れられない旅があります。

何かの瞬間に、ふと思いつく。

修学旅行も、そんな旅のひとつだと思います。

連絡船に乗り、海を渡って香川へ。

高松棧橋で聴いた校歌での出迎え、

こんびらさんの長い石段や、栗林公園の風景は、

なぜか心の奥深くにずっとあつて、

忘れられないでいる。

もう一度、記憶の地図を頼りに、

あの頃の自分に会いに行こう。

懐かしい修学旅行の記憶をたどって、

センチメンタルジャーニー。

もう一度、香川の旅へ。

レトロな電車で揺られ、  
懐かしいあの日の自分と  
出会う場所



ガタンゴトン…。動き始めた車輪の音が、心地よいリズムを刻む。高松市のシンボル、玉藻城の石垣が迫る高松築港駅から、愛らしくレトロな雰囲気。電車が走り出す。この高松琴平電気鉄道(愛称「ことでん」)は100年の歴史を誇る、香川のみならず日本中で愛される鉄道だ。

ゆったりとした車窓からの眺めは、市街地の風景から、やがて讃岐平野に広がる田園風景に変わっていく。普段の暮らしから離れて次第に高まっていく旅情の中、時折聞こえてくる学生たちの笑い声に、いつしか心は学生時代に戻っていた。

修学旅行で訪れた香川の地。まだ瀬戸大橋がなかった時代、瀬戸の多島美とカモメを眺めながら食べた連絡船うどん。初めての船旅とまだ見ぬ旅先での出会いに、みんなで胸を膨らませた懐かしいあの日がよみがえってくるようだ。

次の駅まで、もうしばらく。香川の景色を楽しみながら、あの日の自分を探してみよう。

### 源平の舞台は今も、色あせぬままに

源平合戦の舞台として知られている屋島。山上からは、那須与一の扇の的や、義経の弓流しなど、誰もが知っているエピソードが残る瀬ノ浦。これぞ瀬戸内海と見た人を魅了せずにはいられない多島美の備讃瀬戸、四国の玄関口・高松港が大パノラマで見渡せる。

時代を超えて色あせぬ美しい景色や、瀬戸内海を行き交うたぐさんの航跡を見ていると、いつの間にか、先生が話す平家物語の華やかな合戦絵巻に胸を躍らせた、学生の頃の自分に戻っていた。



### 名園との再会 一步一景を楽しむ 大人の休日



栗林公園は、紫雲山を借景に、6つの池と13の築山が巧みに配置された約400年の歴史を誇る大名庭園。ミシシヅメグリーンガイドシャボンに「わざわざ旅行する価値がある」として、最高評価の三つ星に選ばれている。その広大な園内は、小堀遠州流ともいわれる純日本風の池泉回遊式庭園の南庭と、明治時代の庭園の雰囲気も漂わせる北庭に分かれ、それぞれが違う表情で訪れる人々を迎えている。

たまたま美しい「鶴亀松」や「箱松」、北湖の赤い橋、南湖の太鼓橋…。見覚えのある景色に懐かしさを感じつつ、歩いては立ち止まり、また歩いては立ち止まる。自分の周りで繰り広げられる変化に富んだ美しい情景に、あらためて息をのむ。季節や時間、そして自分自身の心の持ちようによっても変化する栗林公園の表情に、何度も見とれてしまう。まさしく「一步一景」。

唐の詩人、于良史が詠んだ漢詩、「水を掬すれば月手にあり」から名付けられ、観月の名所としても知られる掬月亭で、服のお茶をいただければ、まさに大人の休日。

天下の名園との再会が、年を重ねることの楽しみを教えてください。



南湖を囲む遊覧船が観光。栗林公園の新しい楽しみ方を提供している。



箱松



掬月亭では南湖を眺めながら一服のお茶が楽しめる。



骨付鳥に  
海の幸  
今どき香川に舌鼓



香川の旅の楽しみといえば、やはりさぬきうどんだが、今は「うどん県」。それだけじゃない香川県。修学旅行で食べた懐かしい味や新しい香川の味も探したい。美しい石垣で知られる丸亀城のある丸亀市は「骨付鳥」発祥の地。鶏の骨付きも肉を香ばしく焼き上げ、熱々をダイナミックにかぶりつく。じゅわつとあふれる肉汁、ス



パイシーな味付けに、二度食べるとやみつきになると評判。新しい香川の名物として県内全域で楽しめる。瀬戸内海に育まれた海の幸は、昔も今も香川ならではの「ごちそう」。讃岐の夏を代表する魚「マナガツオ」、脂がのつておいしい「スズキ」や、地元ではトラフクよりおいしいといわれている「ナシフク」。「ペーすけ」と呼ばれる太くて大きいアナゴの天ぷらや、マダコのココ飯などもおすすめ。刺身だけでなく、煮付けや唐揚げなど、いろいろな味が楽しめるのもうれしい。



ゆるりと歩く門前町  
785段の石段は、にぎわいも昔のままに

琴電琴平駅を降りて、金倉川の大宮橋を渡る。軒を並べる土産物屋のぞきながら進むと、長い長い「こんびらさん」の石段が姿を現す。見上げた石段はまるで天にも続くよう。にぎやかな呼び込みの声を聞きながら、たどり着いた百段目、二之坂鳥居だ。石段はここから急になる。息を切らせる大人を横目に、駆け上がっていく子どもたち。昔、同級生と競って登った頃をふと思い出す。そして365段、大門に到着。うっかり者の森の石松に思いを巡らせながら後ろを振り向くと、そこには、たつた今登ってきた石段と、夏の讃岐平

野が広がっていた。豪大な大門をくぐると、大きな傘の五人百姓、石畳の桜馬場、小林二茶がこんびら参りをした時にその躍る心を詠んだ「おんひらひら蝶も金比羅参哉」の碑と続く。そして、785段のいただき、御本宮へと到着。二拍二拍手二拝。お参りをしたその後は展望台へ。讃岐平野のみなに、瀬戸大橋や讃岐富士を望むことができる。買ったばかりの「幸福の黄色いお守り」を手に、長い石段を降りる。この後は、江戸の歌舞伎役者がその舞台に立つことを憧れたという旧金毘羅大芝居「金丸座」へ足をのばしてみよう。

懐かしい思い出に再会、新しい出会いに感動

修学旅行から何十年、久しぶりに訪れた香川。あの頃と同じように、海も町も人も、優しい笑顔で温かく迎えてくれた。年を重ねたからこそ、新たに気付いたこともたくさんあった気がする。

心の奥に大切にしまっていた記憶が、新しい思い出へと生まれ変わる。香川での時間旅行物語は、懐かしさとの再会や予期せぬ出会いが待っていた。うどん県公式パスポートを手に、今度はいつ訪れようか。

思い出のあの頃へ、懐かしさと今の香川を楽しむ

うどん県  
時間旅行物語



2013年7月1日(月)~12月1日(日)開催

かつて修学旅行でにぎわった香川県の観光地「琴平」「栗林公園」「屋島」。この懐かしい観光地が昭和、江戸、源平の時代劇場となって、往時の雰囲気味わえる場所としてよみがえります。現役最古のレトロ電車の運行や地元ガイドと歩くまちあるき「てくてくさぬき時間旅行」、霊場めぐりやアート体験、もちろんご当地グルメなど、香川をまるごと楽しめるイベントを開催。あなたがかつて訪れた香川に、もう一度足を運んでみませんか。

「うどん県公式パスポート」でさらに楽しく、お得に!

うどん県を楽しむ周遊スタンプラリーや「遊ぶ」「見る」「食べる」がお得になる割引クーポンがついた一冊。特典として、2泊目からの宿泊代割引や1万円分の宿泊券が当たるキャンペーンを開催。瀬戸内国際芸術祭2013鑑賞パスポートが当たるチャンスもあります。



【お問い合わせ】  
香川県観光振興課 TEL087-832-3360

うどん県-時間旅行物語

現存する日本最古の芝居小屋 金丸座

guest

# 宮本 亜門

## 香川県知事 浜田恵造 対談

1958年生まれ、東京都出身。演出家・KAAT神奈川芸術劇場芸術監督。1987年に「アイ・ガット・マーマン」で演出家としてデビュー。翌年に「文化庁芸術祭賞」を受賞。ミュージカルのみならず、ストレートプレイ、オペラなど、現在最も注目される演出家として、活動の場を広げている。2004年、ニューヨークのオン・ブロードウェイにて東洋人初の演出家として手掛けた「太平洋序曲」がトニー賞で4部門にノミネートされる。KAATのこけら落としとして上演した「金閣寺」が、ニューヨークのリンカーンセンターフェスティバルに招聘された。彫刻家イサム・ノグチを題材とした「ISAMU〜20世紀を生きた芸術家イサム・ノグチをめぐる3つの物語」の上演は、「瀬戸内国際芸術祭2013」の関連事業として、8月30日(金)にサンポートホール高松大ホールで行われる。

**知事** 宮本亜門さんはおじいさまが香川県坂出市出身ということ、香川県に何度も足を運んでいただいています。7月20日からは、「瀬戸内国際芸術祭2013」夏会期がスタートします。同時に、「うどん県 時間旅行物語」と称して、「琴平」「栗林公園」「屋島」など老舗観光地の魅力を引き出す企画も始まっています。今日これらの観光地を回られたということですが、いかがでしたか。

「んびらさん」や栗林公園を回ったことを懐かしく思い出しました。実は昔の思い出を大人になっても一度見つめ直したいという想いもあり、10年程前から香川をよく訪れています。琴平や栗林公園には、古い芸術品が残っていますね。そして、新しいものと古いものが全て一体となっているのが実に面白い。時間を超えてさまざまなものが凝縮されていて、何度も訪れたいのが香川県です。

さんは「瀬戸内国際芸術祭2013」の夏会期中に、香川県の牟礼町で創作活動をされた世界的なアーティスト、イサム・ノグチさんの生涯を舞台化した「ISAMU」を公演されると伺っています。

個人的には、人生を連続する晩年、物事を深く考えたい時期に彼が香川に来たことに注目しています。単純に素材がある、風光明媚というだけでなく、インスピレーションを刺激されるものが香川にはあるでしょう。あれほど世界を知っているイサムさんが香川に来たことは偶然ではないと思っています。

# アーティストの魂を刺激する地、香川

クールで構成される舞台。大変ユニークな試みだと思います。

**宮本** イサム・ノグチさんは、地球規模で物事を考える人。彼の考え方は僕にとつて、刺激的で未来を予感させるものです。3つの公演形態を取ることで、色ではないさまざまな色が生まれます。その中から彼の本質を探っていきたくと思っています。

**知事** 見るたびに違うものになっていくということですか。

**宮本** そうですね。全て違います。一言では語れないくらい、いろいろなことを大きな目でくつと見てきた人なので、彼が見たものを自分が少しでも感じることができないかという思いで作っています。

**知事** お二人に共通するアートや芸術活動には言葉や国境がありません。瀬戸内国際芸術祭にも共通するメッセージです。こうした芸術の力を借

りて、香川の魅力を引き出ししていきたい。アート界・香川を国内外の人々に知っていただきたいと思っています。

アート界・香川で「ISAMU」を上演することをどのようにお考えでしょうか。

**宮本** アートの面白さは、作品を見ながら、自分自身と会話することにありと思っています。足を止め、アートをしながら、自分と向き合うひとときは、とても貴重な時間です。アートは、人はなぜ生きるのか、という根源のような気がしています。香川には多様なアートが存在していますね。実に面白い

です。香川にはまだイサムさんが制作していた時の魂が残っていると思います。その近くで何かを作らせていただきたいし、発表させていただきたい。亡きイサム・ノグチさんにせんえつながらささげたいと思っています。

**知事** 宮本さんはニューヨークのプロ

ードウェイなどでも活躍されていますが、海外でイサム・ノグチさんはどのように映っているのでしょうか。

**宮本** 彼は日本人でも、アメリカ人でもなく地球人なんです。ヨーロッパに行つてもそうですが、「あのAKARRIね」とすぐにイサムさんが和紙

で作った明かりの話になります。芸術を愛する人以外の方もよく知っているし、彼が作ったAKARRIの光の優しさの中で生活している人もいます。いろいろな人が彼の影響を受けて生きていくのではないのでしょうか。人の生き方を変えることができた一人だと思っています。

**知事** 宮本さんは「空海」にも興味を持たれていると伺いました。

**宮本** 高松の書店で空海の本がたくさん並んでいるのには驚きました。そして彼が生まれ

た普通寺市は、お遍路さんの文化もある。空海は独創的な生き方をした人だと感じていて、今もなお人々は空海を求めている。壮大な計画ですが、いつか舞台にできればと思っています。

**知事** 満濃池や普通寺など、香川に暮らす私たちには、身近なところに空海ゆかりのものがたくさんあります。香川の生んだ偉人です。

**宮本** イサム・ノグチさん、空海など、さまざまな人が足跡を残している香川で、いろいろな空想しながら楽しんでいきます。まんてが。アートにみえる香川。本当に面白いです。

**知事** ぜひ、空海の構想が具体化しますように。8月の「ISAMU」本公演、楽しみにしております。今日はありがとうございました。



特集  
2

# アートまっ盛り、夏の瀬戸内

瀬戸内国際芸術祭2013 | 夏:7月20日(土)~9月1日(日)

きらきらと輝く瀬戸の海、行き交う船々、ぽっかりと浮かぶ島々…。

美しい自然を舞台に日本と世界の現代美術のアーティストが、200点以上の作品を展開する瀬戸内国際芸術祭2013。

静かな時間が流れる穏やかな島の暮らし、そして笑顔で迎えてくれる人々。

島ならではのゆったりとしたリズムとアート作品が不思議な調和を生み出している。

12の島々と高松、宇野周辺を巡るアートの旅は、新しい希望の世界へ私たちを誘ってくれる。

夏の瀬戸内は、心地よい熱気と共にアートまっ盛り。



タイム・チューブときまきつつの家(男木島)/川島猛とドリームフレンズ  
天井に床に、くるくる巻かれた筒状のオブジェがいっぱい。オブジェの正体は古い新聞や雑誌。入口で渡される万草紙をのぞくと…。中庭にも巨大な万草紙がある。



太陽の贈り物(小豆島)/チェ・ジョンファ(崔正化)  
オリーブの島・小豆島。土庄港に立つオリーブの葉を組んだ黄金の輪。オリーブの葉一枚一枚に、小豆島の子どもたちからのメッセージが刻まれている。金色に輝く王冠から見える瀬戸内海も美しい。

## SHODOSHIMA 小豆島

民家の隣の古井戸から突如出現する巨大な怪物？

オリーブの島として知られる小豆島は、瀬戸内海で一番目に大きな島。広い島内の美しい自然や暮らしの風景を生かして島全体がアートの舞台。ビートたけしのアイデアをヤノベケンジがアレンジして制作した「アンガー・フロム・ザ・ボトム」は、坂手港から細い路地に入り、少し登った場所にある。民家の隣に突如出現する大きな古井戸。その前に立っていると、どこからか、ゴォーと地響きのような音が聞こえてくる。何かが起こりそうな気配にドキドキしながら待っていると…。瀬戸内国際芸術祭では、驚きもアート。

ANGER from the Bottom(小豆島)/ビートたけし×ヤノベケンジ  
アンガー・フロム・ザ・ボトム=地底からの怒り。古井戸の中から、頭に芽が刺さった怪物がゆっくりと出現。口から大量の水を吐き出す。

海を渡ってアートの島へ  
待っていたのは驚き、感動、異空間。  
難しく考えるのはやめて、感じるままに楽しもう。  
島を巡っていくうちに、なんだか元気がなくなってきた。



ザ・スター・アンガー(小豆島)/ヤノベケンジ

東西両方面の玄関口となる小豆島・坂手港。船から降りる人々を迎えるのは、八方から角を突き出し、太陽のように光輝く巨大な球体。球体の上には、叫びを上げるドラゴン。ゆっくりと回転しながら光を放つ姿は圧巻。

昭和40年会  
男木学校(男木島)/  
昭和40年会  
休校中の学校で、アーティスト集団「昭和40年会」メンバー(松藤浩之、有馬純典、会田誠、パルコキノシタ、小沢理、大野オスカル)が作品を展開。メンバーによるワークショップも開催。



### 「小学校からやりなおせ」 大人も学べる小学校開校

斜面に民家が密集し、細道、坂道、階段と迷路のような路地が続く男木島。休校中の男木小・中学校で、アーティスト集団「昭和40年会」が大人も学べる男木学校を開校。年齢、国籍、性別不問、テーマもユニーク「小学校からやりなおせ」。

体育的美術教員、芸術的体育教員、校長など各アーティストが架空の教員となり、放送室、理科室、集会室、校長室、廊下など学校の至る所で作品を展開する。「こんな小学校なら、もう一度通ってみたい」と思わずにはいられないほど、ユニークな学校だ。



### 鬼ヶ島に 3000個の 鬼瓦

鬼ヶ島と呼ばれる女木島で展開されている「オノコ瓦プロジェクト」は、香川県の伝統的工芸品、鬼瓦をテーマにしたアート。「笑顔で作ろう」を合言葉に、県内の中学生約3000人が伝統工芸士の指導の下、鬼瓦を制作。女木島が鬼ヶ島と呼ばれる由来にもなった大洞窟に展示される。「見る人、そして島の人みんなに元気を届けたい」と、子どもたちが作った鬼瓦は、どれも個性的で、一枚一枚の表情も豊か。

# 夏期限定開催は「いりこの島」 伊吹島

さぬきうとんといえは、いりこだし。

伊吹島は、そのいりこが生まれる島。

原料となるカタクチイワシの漁期は、

6月から8月。漁で活気つく島が、

今年はアートでさらに盛り上がる。



沈め船(伊吹島)/  
豊福亮+Chiba Art School  
島の漁師が使っていたカラフルな漁具をヒントに、約5万個のワキを使って立体作品を制作。校舎の1階から2階へと、何かに迫り立てられかのように泳ぐ魚たちの群れは圧巻。



夏会期が開催される7月20日から9月1日までは、伊吹島が1年で最も活気づく季節。わずか3カ月ほどのイワシの漁期の間、1年分のいりこを生産するからだ。海岸沿いにある「いり場」と呼ばれるいりこの加工場に、イワシを乗せた船が戻ると、新鮮なうちに素早く釜ゆでされ、乾燥。家族総出で作業するという。

一年前のこの時期に初めて島を訪れたアーティスト豊福亮さんは、その活気あふれる姿に驚くと同時に、島や人々が持つエネルギーを感じたという。「イワシ漁の熱気を感じて、にぎやかでカラフルなものを、島の人たちと作りたいたいと思いました」。島の人や観音寺市内の小中学生と作った豊福さんの作品は、旧伊吹小学校で見ることができ。

春会期の沙弥島で話題になった「島スリーブ」(EAT&ART TARO)が伊吹島にも登場する。

### どうぞ、 召し上がれ アートの島は、 おもてなしの島

丸ノ内ホテル(東京都)のシェフと豊島のお母さんたちが、地元のおいしい食材を使ったメニューで、お客様をおもてなし。

建築家・安部良が設計した島キッチン「食とアート」でたくさんの人々をつなぐ出会いの場として誕生した、開放的なレストラン。訪れた人たちは、おいしくおしゃべりにアレンジされた豊島のおいしい味を楽しみながら、同時にお母さんたちとの会話やアートな空間も楽しんでいる。



### ようこそ、 夏の芸術祭へ

陽光に映えるアートの島々。穏やかな島の雰囲気不思議とマッチしたエニークで面白いアート作品。日常を忘れて自分と向き合う時間がここにはある。美しい自然やおいしい食材も訪れる人々を待っている。



### 芸術祭の情報はここでチェック!

- 芸術祭の歩き方、各施設の混雑状況がわかって便利です。
- 瀬戸内国際芸術祭2013 公式ウェブサイト  
<http://setouchi-artfest.jp/>  
作品やアーティスト情報はもちろん、会期中の作品、船などの混雑情報がリアルタイムで分かる。作品鑑賞整理券の配布状況などもチェックできる。
- 瀬戸内国際芸術祭スマートフォンアプリ  
iOS版 (iPhone・iPad)、  
Android版公式アプリケーション (無料)  
アート作品の位置などが地図上に表示されるほか、作品名などの検索も可能。またGPSを利用し、自分のいる場所を地図上に表示できる。混雑・休館情報などもリアルタイムで発信。

# 香川・愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA EHIME  
SETOUCHI SHUN SAI KAN

東京・新橋アンテナショップ  
特産品、郷土料理、観光交流コーナーで  
香川の旬をぜひどうぞ。

注目はこれ!

## 瀬戸内の名産品 リデザインプロジェクトフェア開催 (期間:8月19日~25日)

瀬戸内国際芸術祭に合わせて生まれたアートなお土産品。公募によりパッケージをリニューアル。昔懐かしいあの産品もおしゃれに衣替えて1階「特産品ショップ」に登場します。芸術祭 夏会期に合わせて開催する期間限定フェアです。秋会期の情報も手に入れます。ぜひお立ち寄りください。



いちご、ももなど香川の果物が  
ぎゅっと詰まったゼラート  
**瀬戸内ゼラ**  
(有限会社ナツティモ)



香川製ソウジナル豆粒の  
実から生まれた菓子  
**讃州大黒**  
(株式会社豊実研たから)

高ごたえと、香ばしさが心地よい  
**瓦せんべい**  
(株式会社 空家入社製菓)



100%小豆島産  
**エキストラバージン  
オリーブオイル**  
(株式会社三枝産油)

海の幸の山崎の  
ぎゅっと詰まったおやつ  
**にんにくいりこ味噌**  
(オリーブオイル(20g))

たじろし、  
食べてよし  
**瀬戸内いりこ**  
(株式会社アイブ)

【交通のご案内】  
○JR「新橋駅」駅南口から徒歩1分  
○東京メトロ銀座線「新橋駅」2番出口すぐ  
○ゆりかもめ/都営浅草線「新橋駅」から徒歩3分  
○都営大江戸線「汐留駅」から徒歩5分  
〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10 新橋マリンビル1,2階  
http://www.setouchi-shunsaikan.com  
観光交流コーナー TEL03-3574-2028

## 〔東京で味わえる香川の恵み〕

香川の食材に東京で出合った。  
まずは東京で。次はぜひ本場、香川へ



## 瀬戸内の優しさが口に広がる 「さの国 和三盆プリンポップオーバーアラモード」

「良いものは、食べたらずらりと笑顔になるでしょ」と微笑むのは、自由が丘のカフェ「SPOON BREAD」の武蔵オーナー。素材の良さが引き立つ調味料や食材との出合いを求めて全国各地に足を運んでいるそうです。

武蔵さんが「さの国」と呼ぶ「讃岐」で、「和三盆糖」を使ったプリンに出合ったのは昨年の食材ツアー。「和三盆糖を使うことで味の深みが増し、いつまでも記憶に残る味だった」と振り返ります。そして武蔵さんはニューヨークで出合った、パンとシュー生地が一つになった様な新感覚の「ポップオーバー」と、「さの国」で出合った「和三盆プリン」を組み合わせることを思い付く。ポップオーバーは、サクとした食感が心地よく味はシンプルのため、和三盆糖の良さが一層引き立ちます。

今年5月、自由が丘スイーツフェスタに登場し人気を博し、さらにアレンジを加えカフェのグランドメニューとして登場。「人も風土もあったかい「さの国」



で感じた優しさを、このプリンで届けたい」とおっしゃる武蔵さんは、やっぱり微笑んでいました。

【SPOON BREAD】  
東京都目黒区緑が丘2-25-7 スイーツフォレスト2F  
TEL03-5731-6262 http://spoonbread.jp/

## 特産品の新たな一面に 出合えるショップ 「サン・クラック」



リニューアル  
オープン

暮らしの中で愛されてきた名品や工芸品のショップとして装いも新たにリニューアルオープン。「地域では当たり前で愛されているのに意外と知られていなかったモノを発掘して紹介したい」と力が入る山下マネージャー。試作品の試食や品評会など商品開発にもお客様に加わってもらうほか、体験会やお勧め商品の募集など参加型の店づくりを目指します。スタッフお勧めの使い方の提案も楽しみの一つ。きっと新しい発見が待っている、ひと味違うお店です。

旬の産品特集  
6月/お茶 7月/そうめん

【お問い合わせ】  
さめき産業芸術館 サン・クラック TEL087-887-8140  
http://www.sunquelaque-sanukis.com/ 江西 副店長



## 瀬戸内国際芸術祭2013夏会期イベント情報

島をはじめ、高松港や美術館などで、さまざまなイベントが開催されます。

### 世界の子も創作劇プロジェクト ムーミン谷の夏まつり

フィンランドの美術家と俳優が中心となり、子どもたちとキャンプを通じてムーミンを題材とした演劇作品を作り上げます。舞台美術と演出はマリア・ヴィルッカ、演出・脚色はティモトリッカが担当します。

公演日:8月17日(土)、18日(日)  
場 所:女木島  
料 金:一般1500円/小中学生500円

### 高松港・アート工房ーベンガル島ー

高松港に、国内外のアーティストや職人たちが100組以上集合。パングラデシュからは、織物、楽器、木工芸をはじめ、ダンスや楽団などが参加。高松港の夕暮れにグッカの市場のような風景が広がります。

会 期:7月20日(土)~9月1日(日)  
場 所:サンポート高松 アート広場



アラキー列車(高松)/荒木経惟  
妖艶な花々や人形など、写真家・荒木経惟氏の作品を車体に描いた列車。JR予讃線と土讃線を走る。西の島々への移動は、ぜひアラキー列車で。



### 丹下健三生誕100周年プロジェクト

香川県庁舎、国立代々木競技場などを設計した戦後の日本を代表する建築家・丹下健三。生誕100周年を記念し、展覧会やシンポジウム、建築ツアーなど、さまざまなイベントが開催されます。

●「丹下健三 伝統と創造〜瀬戸内から世界へ〜」展  
会 期:7月20日(土)~9月23日(月・祝)・9月21日(月)~9日(月)・17日(火)は休館日  
場 所:香川国立ミュージアム  
料 金:一般1000円

●メインシンポジウム(香川・高松)  
日 程:8月17日(土)、18日(日)  
場 所:アルファあなふくホール415号

●香川県庁舎ガイドツアー  
日 程:7月20日(土)~9月23日(月・祝)  
毎日実施

詳細は公式ウェブサイト参照  
URL: tang100.jp



写真:三輪利博

## 秋会期は、10月5日(土)スタート。

本島、高見島、東島の3つの島が新たに会場となります。10月5日(土)~11月4日(月・祝休)  
造幣水軍の本拠地として栄え、歴史的な遺産が残る島「本島」では、造幣大工芸をテーマにしたプロジェクトが始まります。急斜面に民家が密集する瀬戸内海らしい風景が残る「高見島」では、伝統の食「茶粥」のお接待も。日本初の海員養成学校が設立された「東島」では、日比野克彦氏らが作品を展開します。

【お問い合わせ】  
瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局(香川県瀬戸内国際芸術祭推進室内)  
(平日) TEL087-813-0741 (土日祝・総合インフォメーションセンター) TEL087-813-2244

## 県庁で インターンシップ 募集

学生の皆さんに香川県職員として働くイメージを持ってもらうと、インターンシップの募集をします。

県の仕事内容や職場の雰囲気を実際に体験でき、働くためにどんな力を身に付けるべきか、知識・技術がどのように生かせるかなどを体感できるので、適性・適職を考える機会にはならずです。

施設の見学や職員との意見交換も予定。あなたの視野を広げるプログラムを用意して、お待ちしております。将来進む道を、ぜひ香川県で見つけてください。

実習期間 / 8月19日(月)~30日(金)  
※実習コースにより期間が異なります。  
申し込み / 在籍する大学などのインターンシップ担当窓口へ申し込み  
(申込期限は各担当窓口にお問い合わせください。)

【お問い合わせ】  
香川県人事・行革課 TEL087-832-3890

香川県庁インターンシップ 検索



(二次元バーコード)

## 移住先として人気アップの 秘密に迫る

移住先として人気が高まっている香川県。「住まいが広く災害が少ない」「子育てしやすくアートや文化が豊か」「仕事も見つけやすい」など、香川が選ばれた理由はたくさんあるようです。

そんな移住者10組の生の声が詰まった「住んでみてジッカン!はっけん!かがわ暮らしDVD」。香川暮らしを始めるために欠かせない「仕事」や「住まい」などの基本的な情報はもちろん、まちや島、里に移り住んだ人たちがそれぞれ登場して、その魅力を教えてくれます。

住んでみて実感した香川の良さを生き生きとした表情で語る彼、彼女たち、とっっても輝いています。



東京に住んでいたときは、20Kの部屋。今は、4~5部屋あって広々としています。島に来てから、休日の時間がゆっくりに流れている気がします。  
(東京から高島へ移住 眞壁さん)

香川の元気企業大集合!  
かがわUターンフェア<合同就職面接会・移住相談>  
7月28日(日)・東京都千代田区一ツ橋1-1-1/レスサイドビル マイナビルーム

【お問い合わせ】  
香川県地域づくり推進室 TEL087-832-3125  
http://www.pref.kagawa.jp/seisaku/eekagawa/